

論点メモ（案）

（第3回 都市自治体の公民連携（文化・芸術振興）に関する研究会）

2017年2月

（公財）日本都市センター研究室

論点1 文化・芸術振興分野における公民連携の現状と課題について

- ・これまでと現状
 - 法令、制度の変遷
 - 連携パターンの分析
 - 連携の手法（業務委託、指定管理、共催等）
 - 連携の内容（施設管理、施設のコンテンツ、施設を用いないコンテンツ）
- ・効用と課題の整理（行政と財団等の分離（政策と実施の分離）、等）
- ・文化・芸術振興分野における公民連携の特質
- ・公民連携が阻害される場合

論点2 文化・芸術振興分野における都市自治体の役割

- ・自治体行政の担うべき役割と責任
 - 文化政策における公民連携（自治体が関与することの意義）
 - 地域資源、人材の発見（高等教育機関等との連携）
 - 方針、プラン（計画）の明確化
 - 人材育成、ネットワークの構築
- ・公民連携を推進する組織や職員のあり方について
 - 組織及び人員体制
 - 専門的職員の育成と活用する方法

論点3 文化・芸術振興分野における都市自治体と外部との関係

- ・自治体と財団等の距離（モデル化）
- ・専門人材との関係
 - 連携パターンごとの専門人材との連携
 - 専門人材のキャリアパス
- ・住民との関係
 - 住民像の整理（プランニング、友の会、ボランティア、サポーター、NPO）
- ・資金面での連携
- ・文化・芸術振興分野における評価の実際
 - 評価の対象、方針、指標
 - 条例、プラン（総合計画、個別計画）との関係

論点4 これからの公民連携のあり方

- ・今後の文化政策の方向性
 - 「行政の文化化」、「パブリックアート」の総括
 - 文化施設の老朽化問題
 - 人材育成、活用の方向性
 - 他分野との連携等の可能性
 - 他の政策分野への示唆
- ・都市自治体による適切な制御システムの検討
 - 基準・ルール設定
 - モニタリング、監査等のチェック体制
 - 他と切磋琢磨する仕組み
 - 人材育成、活用とコスト
 - 適切な評価（質の評価、数値化できない効果への対応等）
- ・住民ニーズの的確な把握、参加・協働のあり方の検討
 - プランニング、実施、評価の各段階でどのような住民がいかに関わるか